

MUFG Focus USA Weekly

経済調査室 ニューヨーク駐在情報

MUFG Union Bank, N.A. Economic Research NY
Hiroshi Kurihara | 栗原 浩史 (hikurihara@us.mufg.jp)
Director and Chief U.S. Economist

トランプ大統領は債務上限と来期予算の対応で民主党と協調

【要旨】

- ◇ トランプ大統領と議会指導部は今週 6 日、ハリケーン災害の救済法案に「10 月以降の短期の歳出法案」と「債務上限の一時的な適用停止」を加えることで合意。この一体法案は早速、7 日に上院、8 日に下院で可決され、大統領の署名を受けて成立した。
- ◇ 今回の一体法案は、民主党指導部のシューマー上院院内総務やペロシ下院院内総務による案であり、共和党内に反対意見があるなかでトランプ大統領が受け入れた。そのため、7 日の上院での採決は、賛成票が 80、反対票が 17 だったが、反対票は全て共和党議員であり、8 日の下院での採決も、賛成票が 316、反対票が 90 だったが、反対票は全て共和党議員であった。
- ◇ 今回の法案成立により、「継続予算決議」と呼ばれる措置で現行水準の連邦歳出が 12 月 8 日まで可能となった。これにより、10 月に入って政府運営資金が確保されず、政府機関が閉鎖される自体は一先ず回避された。また、債務上限の適用が 12 月 8 日まで停止された。これにより、9 月末にかけて米国債のデフォルト・リスクが意識され、金融市場が混乱する事態も回避された。この様な債務上限と予算への対処により、トランプ政権と議会は、目先は最優先の政策課題と位置付けている税制改正に集中して取り組むことができるようになった。
- ◇ 議会共和党が法案成立で実績を挙げられないなか、今後もトランプ大統領が民主党との協働を志向する可能性は十分に考えられる。トランプ大統領と民主党が今後一段と接近した場合には、(先鋭化してきた)党派対立の緩和に繋がって、政策の進展をもたらす可能性がある一方、トランプ大統領と共和党議員との関係が大きく悪化するようだと、モラー特別検察官による捜査が進められているなか、トランプ政権存続のリスクともなりかねない。トランプ政権が、政策課題に応じてバランス良く与野党と協調していけるのか注目される。

トランプ政権は、9月末に迫っていた来期予算と債務上限の問題を一先ず回避

トランプ大統領と議会指導部は今週 6 日、ハリケーン災害の救済法案に「10 月以降の短期の歳出法案」と「債務上限の一時的な適用停止」を加えることで合意。この一体法案は早速、7 日に上院、8 日に下院で可決され、大統領の署名を受けて成立した。

今回の一体法案は、民主党指導部のシューマー上院院内総務やペロシ下院院内総務による案であり、共和党内に反対意見があるなかでトランプ大統領が受け入れた。そのため、7 日の上院での採決は、賛成票が 80、反対票が 17 だったが、反対票は全て共和党議員であり^(注 1)、8 日の下院での採決も、賛成票が 316、反対票が 90 だったが、反対票は全て共和党議員であった。共和党指導部では、マコネル上院院内総務は民主党案に反対していなかった模様だが、ライアン下院議長は、債務上限の適用停止期間が短い等の理由で、民主党案を「ばかげている」と述べていた。

(注 1) 上院での採決で反対した共和党議員は、ジェフ・フレイク議員 (アリゾナ州)、ジェームズ・ランクフォード議員 (オクラホマ州)、ジェリー・モラン議員 (カンザス州)、ジム・リッシュ議員 (アイダホ州)、ジョニ・エルンスト議員 (アイオワ州)、ジョン・マケイン議員 (アリゾナ州)、スティーブ・デインズ議員 (モンタナ州)、チャック・グラスリー議員 (アイオワ州)、デブ・フィッシャー議員 (ネブラスカ州)、パトリック・トゥーミー議員 (ペンシルベニア州)、ベン・サス議員 (ネブラスカ州)、ボブ・コーカー議員 (テネシー州)、マイク・エンジ議員 (ワイオミング州)、マイク・リー議員 (ユタ州)、ランド・ポール議員 (ケンタッキー州)、リンゼー・グラハム議員 (サウスカロライナ州)、ロン・ジョンソン議員 (ウィスコンシン州) の 17 名。

現行水準の歳出が 12 月 8 日まで可能に

10 月 1 日から始まる 2018 会計年度予算については、下院が 7 月 27 日に国防費増強や「国境の壁」建設資金を盛り込んだ 7,880 億ドルの歳出法案を可決していたが、上院での可決の目処は立っていなかった。

今回の法案成立により、「継続予算決議 (CR : Continuing Resolution)」と呼ばれる措置で現行水準の連邦歳出が 12 月 8 日まで可能となった^(注 2)。これにより、10 月に入って政府運営資金が確保されず、政府機関が閉鎖される自体は一先ず回避された^(注 3)。なお、ハリケーンの被災者救済・復興資金としては、152.5 億ドルが盛り込まれている。

(注 2) 現行水準の連邦歳出であるため、トランプ大統領が求めていた「国境の壁」建設予算 (16 億ドル) 等は含まれていない。

(注 3) 政府機関の閉鎖は、米国では過去にも事例があり、直近では 2013 年 10 月に発生している。

債務上限の適用を 12 月 8 日まで停止

連邦政府の債務上限については、ムニューシン財務長官が「9 月 29 日までに引き上げることが必要だ」と以前より述べていたが、足元ではハリケーンの被災地支援のために、より早期の引き上げが必要になっていた。

今回成立した法案により、債務上限の適用が 12 月 8 日まで停止された。これにより、9 月

末にかけて米国債のデフォルト・リスクが意識され、金融市場が混乱する事態は回避された。債務上限の適用停止は12月8日までだが、財務省が特別措置等を講じることで、実際に債務上限の引き上げ（または適用停止の延長）が必要となるのは来年2月か3月頃とみられている。

この様な債務上限と予算への対処により、トランプ政権と議会は、目先は最優先の政策課題と位置付けている税制改正に集中して取り組むことができるようになった。

「債務上限引き上げ手続き」の恒久的な廃止も検討していく模様

債務上限については、「トランプ大統領は“引き上げ手続きの恒久的な廃止”を今後数ヶ月に亘り検討していくことでシューマー上院院内総務と合意した」との報道も出ている。トランプ大統領は記者団に対し「（引き上げ手続きの恒久的な廃止は）そうするための良い理由がたくさんある」と述べている。具体的には、トランプ政権は、下院で過去に存在した通称「ゲッパード・ルール」等に関心があるようだ。「ゲッパード・ルール」下の下院では、予算決議を可決した時点で自動的に債務上限の引き上げが認められた^(注4)。

「債務上限の引き上げ手続き」が廃止されれば、債務上限に起因した金融市場の混乱がなくなるほか、議会もその分の時間を他の法案審議に割くことができるようになる。一方、「債務上限の引き上げ手続き」という（他国ではあまりみられない）米国固有の制度は、金融市場や他国からは無用だと批判されているものの、米国においては財政規律を保つ上で一定の効力を持ってきたことも事実であり、恒久的な廃止となれば財政規律への影響が幾分懸念される。

(注4) 「ゲッパード・ルール」は、下院規則として1980年に導入され2011年に廃止された。1980年～2010年までの31年間において、計11年間は規則が停止されたが、残りの20年間においては適用されている。「ゲッパード・ルール」との通称は、本下院規則を起草したリチャード・ゲッパード元下院議員に由来する。

トランプ政権と民主党との今後の関係に注目

今回のトランプ大統領による民主党案の受入は、ハリケーン災害が発生し、北朝鮮情勢も緊迫するなか、“非常時”との認識が後押しした側面があるとは言え、トランプ大統領と民主党の重要な接近事例として注目されよう。実は、5月に成立した現2017会計年度の約5ヵ月間の予算法案も、民主党の支持を得て超党派で可決している。

そもそもトランプ大統領の主張する政策は、「インフラ投資の拡大」、「教育・子育て支援」、「保護主義的な貿易政策」等、民主党の主張と類似のものも多い。議会共和党が法案成立で実績を挙げられないなか、今後もトランプ大統領が民主党との協働を志向する可能性は十分に考えられる。目先の最重要課題である税制改正についても、トランプ大統領は6日、ノースダコタ州で税制改正についての演説を行った際に、大統領専用機に同州選出のハイトキャンプ上院議員（民主党）を同乗させて向かっている。

トランプ大統領と民主党が今後一段と接近した場合には、（先鋭化してきた）党派対立の緩和に繋がって、政策の進展をもたらす可能性がある一方、トランプ大統領と共和党議員との関係が大きく悪化するようだと、モラー特別検察官による捜査が進められているなか、トランプ政権存続のリスクともなりかねない。トランプ政権が、政策課題に応じてバランス良く与野党と協調していけるのか注目される。

(2017年9月8日 栗原 浩史 hikurihara@us.mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。

The information herein is provided for information purposes only, and is not to be used or considered as an offer or the solicitation of an offer to sell or to buy or subscribe for securities or other financial instruments. Neither this nor any other communication prepared by The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd. (collectively with its various offices and affiliates, "BTMU") is or should be construed as investment advice, a recommendation to enter into a particular transaction or pursue a particular strategy, or any statement as to the likelihood that a particular transaction or strategy will be effective in light of your business objectives or operations. Before entering into any particular transaction, you are advised to obtain such independent financial, legal, accounting and other advice as may be appropriate under the circumstances. In any event, any decision to enter into a transaction will be yours alone, not based on information prepared or provided by BTMU. BTMU hereby disclaims any responsibility to you concerning the characterization or identification of terms, conditions, and legal or accounting or other issues or risks that may arise in connection with any particular transaction or business strategy. While BTMU believes that any relevant factual statements herein and any assumptions on which information herein are based, are in each case accurate, BTMU makes no representation or warranty regarding such accuracy and shall not be responsible for any inaccuracy in such statements or assumptions. Note that BTMU may have issued, and may in the future issue, other reports that are inconsistent with or that reach conclusions different from the information set forth herein. Such other reports, if any, reflect the different assumptions, views and/or analytical methods of the analysts who prepared them, and BTMU is under no obligation to ensure that such other reports are brought to your attention.